

図書館だより

第 9 号

昭和 55 年 3 月 25 日

愛媛大学附属図書館

目 次

- | | |
|-------------------------|----------------------------------|
| ○ 図書館の今昔…………… 1 | ○ 新着参考図書リスト…………… 7 |
| ○ 雑誌論文を探すための参考図書…………… 2 | ○ お知らせ…………… 8 |
| ○ 読書について…………… 4 | 第28回中国・四国地区大学図書館協議会
総会の開催について |
| ○ 図書館と大学生生活…………… 4 | 図書館利用証の変更について |
| ○ 卒業を前にして…………… 5 | 愛媛大学記念文庫について |
| ○ 見つかるまで探します…………… 6 | 学生希望図書について |
| —レファレンス余話— | |

図書館の今昔

教養部長 瀬 川 富 士

図書館の今昔などと大きな題目を掲げたが、要は私達の学生時代と現在とを比べて見ようというだけの事である。「図書館だより」第5号の中に三崎図書館長が、未だ何一つ充分とは言えないと書かれているが、私等から見ると図書館は大変充実されたものだと思う。

私が京都大学の学生であった昭和20年代の前半には、京都大学には中央図書館というものは未だ完備されてはいなかった。私達が利用したのは専ら理学部物理学教室と化学教室の図書室！であった。そこには専門図書・雑誌はせいぜい1940年半年頃の発行のものまでしか揃っていなかった。戦争のために輸入が止っていたからである。それでも教授に指示された文献は読んでおこうと努力した。図書室の中だけでは充分理解できなかったが、雑誌は室外持出し禁止だったので、何日も図書室に通って筆写したものであった。友人と共同で分担を定めガリ版を切って張り綴じたものが

何冊か研究室の書棚の中に紙の色も変ってはいっているが、複写機の発達した今日から見ると今昔の感を禁じ得ない。しかし苦心して作ったものだったから丹念に読んだ。その頃の印象は今も強烈に残っている。

写真複写をするようになったのは大分後の事であった。それでも相当の手間と金がかかったし、文献の所在を探すのも一苦勞であった。当時から見ると現在は大変便利になって、図書館に頼むと探し出して複写して貰える。便利になることは結構なことだが、コピーを手に入れると、それで安心して何時か読もうと思ってしまい込むことがありはしないか。これは自戒でもある。今後図書館は益々整備されて便利になることであろうが、私達はそれに溺れてはならないと思う。情報の選択ということも今以上に必要になるだろう。私達は図書館の有効利用ということについて、もっと深く考えてみなければならぬであろう。

雑誌論文を探すための参考図書

論文は年間に数パーセントの成長率で増加して、その複利計算ともなると厩大な数値となります。その多量の文献の中から必要とする論文を探すための参考図書（二次資料）が本館の「参考図書コーナー」に次々と入っていますので、その図書について紹介いたします。

(1) 雑誌記事索引（人文・社会編，科学技術編， 国立国会図書館参考書誌部編集）

和文の雑誌論文を探す場合に、まず上げられるのが、昭和24年に創刊されましたこの図書です。本館（書庫及び参考調査係）には、昭和26年から入っています。科学技術編は、収録文献の $\frac{1}{3}$ 強をしめていた医学・薬学部門を30巻1号（昭和54年）から分冊刊行にしました。人文・社会編は、人文・社会科学関係を、A；政治・行政，B；法律・司法，F；教育・スポーツのように11の部門に分け、科学技術編は，MA；数学，MC；物理と21部門に分け、それらはそれぞれ細分化され、求める記事には分類的にことばからアプローチできるようになっています。各記事は、論題，文献番号，著者，雑誌名，巻号，発行年月，ページの順で構成されています。採録誌数は、昭和53年で人文・社会編1,617誌，科学技術編1,280誌。季刊ですので、新しい文献を調査するのに便利です。巻末に、収録誌名一覧，各巻には別冊の著者索引が付いています。人文・社会科学関係の文献は、分野によって多少のちがいがありますが、4～7割をカバーしていると推定されています。

(2) 雑誌記事索引—人文・社会編—累積索引版 （国立国会図書館参考書誌部監修 日外アソシエーツ編・発行）

先出の(1)には、経済関係の文献を例に取っても、昭和30年から49年までに160,000論文が収録されていますが、それを累積化して、しかも4期の期間と11の主題別に分冊にして至便にしたのがこの図書です。4期の期間とは、第1期を昭和45年～49年に取り，第2期：昭和40年～44年，第3期：昭和30年～39年，第4期：昭和23年～29年であり，11の主題別分冊とは，シリーズⅠ：政治・行政法，シリーズⅡ：法律，……シリーズ7：教育・文化……です。すべてのシリーズを所蔵

しており，第4期が順次受け入れられつつあるところ です。

そして，第1期・第2期（昭和40年～49年）の10年間の補巻として「10年間の総合索引（著者名編／件名編の2分冊）」が刊行されています。10年間の50万件におよぶ索引で，特定著者の業績の追跡，特定テーマの幅広い文献調査に非常に役に立つものです。例えば，アイルランドの経済史について書かれている論文を知りたいとか，青木繁について論じられた文献などを調べたい時に，他に類を見ない威力を発揮する索引です。

(3) 雑誌文献目録シリーズ（「雑誌文献目録」 編集部編 日外アソシエーツ発行）

例えば，同シリーズの1冊「教育学・教育問題に関する10年間の雑誌文献目録」（昭和40年～49年）は，(2)の第1期と第2期とをもとに，教育学・教育問題に関する10年間に発表された雑誌論文約15,000件を，使い易いように編集したものです。10年間の文献を通覧できるのと，分類および見出しを修正し，編成しなおしているのに特色があります。利用度の高い図書です。主題別の文献目録のほかに，事項索引（主題および人名）と収録誌名一覧が付いています。なお，順次，昭和30年～39年が刊行されています。

同シリーズで，本館所蔵分は次のとおりです。

芸術・美術に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

学校教育に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

教育学・教育問題に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

音楽・演劇・芸能に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

宗教に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

政治・社会問題に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

政治学に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

哲学・思想に関する10年間の雑誌文献目録（昭和40年～49年）

(4) 20世紀文献要覧大系(日外アソシエーツ刊)

このシリーズも、(1)・(2)・(3)と同じ文献目録ですが、基本図書・参考図書・索引などの調査に必要な文献の一覧と利用の手引き(第1部「研究文献の利用案内」)があり、文献目録もより細かく分類されており(第2部「文献目録」)、網羅的な累積文献目録といえることができます。第1部の「研究文献の利用案内」は、独立しても利用できるだけの価値があります。このシリーズは、どの巻も同じ構成で、第1部・第2部の他に「件名索引」・「著者名索引」および「収録誌名一覧」が付されています。文献を効率的に利用できるようになっています。使ってみてはじめて解かる価値です。

書評などで酷評された巻があったり、書誌的事項の誤りも指摘されていますが、主題分野についての至便な参考図書であり、本館では、以下の図書を所蔵しています。(刊行分すべて)

- ① 日本文学研究文献要覧(昭和40年~49年)
 - I 古代~近世編
- ② 日本文学研究文献要覧(昭和40年~49年)
 - II 現代日本文学編<作家・作品論別>
 - (②・補) 日本文学研究文献要覧(昭和40年~49年) II 現代日本文学・補遺編<ジャンル別>
- ③ 外国文学研究文献要覧(昭和40年~49年)
 - I 英米文学編 編集代表:安藤勝
- ④ ドイツ文学研究文献要覧(昭和20年~52年)(外国文学研究文献要覧Ⅲ)森本浩介編
- ⑤ 社会学研究文献要覧(昭和40年~49年)佐野真編
- ⑥ 経営管理(研究・実務)文献要覧(昭和43年~54年)産業能率短期大学編
- ⑦ 文化人類学研究文献要覧(昭和20年~49年)佐野真編
- ⑧ 日本文学・語学研究英語文献要覧 吉崎泰博編
- ⑨ 中国文学研究文献要覧(昭和20年~52年)
 - (外国文学研究文献要覧Ⅱ) 編集代表:吉田誠夫

その他、本館の「参考図書コーナー」には、雑誌論文を中心とした文献目録として、次のような図書があります。書名が内容を表わしていますので、説明は省きます。

○立教大学アメリカ研究所編 アメリカ研究邦語文献目録Ⅱ 歴史・政治・経済・文学 1970~1974

東京大学出版会 1976年7月

○日本私立大学協会 図書館学文献目録編纂委員会編 図書館学文献目録 日本私立大学協会 1971年5月

○中国思想宗教史研究会編 中国思想・宗教・文化関係論文目録 国書刊行会 1976年6月

○地方史研究協議会編 日本史文献年鑑 '75~'80 柏書房 1974年10月~1980年2月

○人文地理学会編 地理学文献目録第5集~第6集 大明堂 1973年4月~1978年5月

○日本政治学会編 日本政治学文献目録 No.10(1974)~No.11(1975) 東京大学出版会 1975年10月~1976年11月

○田中英夫・堀部政男編 英米法研究文献目録 東京大学出版会 1977年8月

○法律時報編集部編 戦後法学文献総目録Ⅰ~Ⅴ 日本評論社 1978年7月

○日本経済史研究所経済史文献編集委員会編 経済史文献解題 昭和50年版~昭和52年版 清文堂出版株式会社 1976年3月~1977年12月

○東京大学新聞研究所図書室編 [東京大学新聞研究所所蔵] マス・コミュニケーション研究文献目録 1950年~1969年 編所 1970年12月

○Japan Speech Abstracts 刊行委員会編 日本吃音・構音障害文献集成 日本学術振興会 1975年3月

○地質調査所編 地質文献目録 1964~1965 工業技術院地質調査所 1970年11月~1971年2月

○地質調査所編 地質文献目録 1956~1960(地域別) 工業技術院地質調査所 1978年10月

○谷村辰巳編 体育学研究文献分類目録 第2巻(全国大学紀要, 体育学研究, その他)

不昧堂出版 1975年9月

○国立国語研究所編 国語年鑑 昭和53年版~昭和54年版 秀英出版 1978年8月~1979年8月

参考調査係(大森)



読書について

法文学部 法学4回 西原潤二

- (1) いかなる態度で本に接するか。
- ㊸ 娯楽として一目的はともかく、内容はともかく現代人ほど多くの本に接している者は今までになかった。良かれ悪しかれ本は生活の必需品となってきた。同時に本は消耗品に転落した。次には何が転落するのか？
- ㊹ 教養として「知的生活」と呼ばれる、本に囲まれたような生き方がもてはやされる時代である。ワインを傾けつつページをめくる自己中心哲学の心臓。彼に見えるのは自分であり、その活動の場は本の存在するわずかな空間である。やさしい羊たちを狼が狙っている。
- ㊺ 義務として一自分に似合わない押しきせの服はその必要がなくなればすぐ脱ぎ捨てられてしまう。
- (2) 芥川龍之介は読書により20代で人生を知ってしまったという。さぞ希望のない人生であったことだろう。
- (3) ある読書家像一彼は読んだものはすべて自分だけのものにしておきたい。頂上にあつて下を見おろし、後から登って来た者を無視し、時には突き落とそうとしている。こんな人間はどんなところにもいるものだ。
- (4) 読書はもともと役に立たぬものだとしてかかるといい。代償として何かを得ようとすればかえって本に裏切られる。素直な気持ちで、自己の赴くところから従って読み進めていくことだ。
- (5) 結局一本の読み方などは一人一人違うものだし、またそうでなければならない。そして自分に合う読み方を発見するには、やはり本を読まねばならないようだ。
- (6) アインシュタインは研究室に一冊の本も置かなかったという。一方、マルクスは「本食い虫」となって古今東西のあらゆる書物を読み漁ったという。本の奴隷となることを恐れた天才と、本を奴隷とした天才と。
- (7) 本も人間と同じように接するのがいい。良いものには心をこめて接すれば必ず愛情が湧いてくる。何度つき合っても飽きないし、むしろ新たな面がわかってくる。
- (8) 読書を目的とせず、手段としなければならない。生活にあつて本は多くのことを教えてくれるようで実は何も教えてはくれない。人間の活動においては経験や創造性との間の潤滑液みたいなものだろう。
- (9) 考えるに本を読めばその内の何かが頭の隅に残ってしまい、それがさまざまに行為を規制したり、考えごとの邪魔をしたりするようだ。読んだものはやはり片端から忘れなければならない。大雨が降り、急流が川底を洗い流すように読書によって頭の中がきれいに「掃除」され、あとに「精神」だけを残してくれるようならどんなにいいだろう。それなら読書はきつと最も爽快なスポーツの一つとなるに違いない。
- (10) 本を読むということは一つの戒律を自己に施すことにつながる。

図書館と大学生生活

理学部数学科 園部一雄

(昭和55年3月卒業生)

愛媛大学に桜の花が満開になる頃、皆さんは新たな希望に胸をふくらませていることだろうと思います。

私は卒業を目の前に控えて、自分の大学生活のことを振り返ってみました。いろいろ幻滅を感じて悩んだことが何度かありましたが、そんな時、心の支えとなってくれたものに、やはり読書があ

りました。私の場合、クラブは陸上部と交響楽団にはいっていましたが、図書館は、毎日午後9時まで開いていたので、部活動を終えた後でも利用でき、ほんとうに助かりました。そして、自分の知りたい内容のほんとうに求めている本を、苦勞して、見つけ出した時の喜びは、何とも言えないものでした。

ところで、皆さんは、試験勉強やレポート書きのためだけに、図書館を利用している人が多いのではないのでしょうか。もし、そうであるならば、学生として、貧弱で受身的過ぎるのではないのでしょうか。ただ、単位取りに終始するだけではなく、「自分にとって、今、何が関心あるか」——それを中心にして自律的に学習し、関心の範囲を拡げていってほしいと思います。必要とあらば、他学部まで行って講義を受けるくらいの意欲がほしいと思います。また、自分の専門以外まったく無知というこにならないように、社会的教養・人間的教養というものを身につける必要があると思うのです。

たとえば、真下信一さんは、「何を見ても聞いても深く感じ考えることができるためには、私たちは教養を身につけねばなりません。私たちの感性と知性を片よらず、狭からず、自由にすくすくと伸ばすように工夫したいものです。そういう自由な人間的な感性と知性をすこやかに育てることを教養を身につけるといいます」と指摘しています。

こう考えていくと、図書館をどううまく活かすかということ、実ある大学生活を送れるか否かにかかっているようです。図書館にしろ、クラブ

にしろ、大学にしろ、人にしろ、すべてこちらからの積極的な働きかけによって、はじめてよいものになっていくのです。今の学生にたいへん欠けていることの一つは、自分の責任で周囲に働きかけていく姿勢だと思います。

今後、私が、図書館に望みたいことは、書庫の本を少しずつでいいから、手に取って見られるように公開するコーナーを設けてほしいということです。書庫の中には、気軽に、誰でもはいていけないし、20万冊もの書物が日の目を見ないのは、惜しい気がします。また、2階自由閲覧室は、集中しにくく、騒がしくなりがちであるから、部屋を区切るなど工夫してほしいと思います。視聴覚室、貴重図書室などもあればよいと思います。

最後に、何でも自分の目で確かめてみる。少しでもおかしいと思ったら納得のいくまで調べてみる。こういった情熱を持った知性を学生時代に身につけることをお勧めします。そういう場として、図書館を大いに利用しましょう。

以上、卒業にあたって、後輩諸君のために少しでもお役に立てばと思い、ペンを取りました。皆さんが、ほんものの大学生となり、有意義な豊かな大学生活を送られることを期待しています。

では、頑張ってください。

卒業を前にして

教育学部・特音4回 宮田 智子

もうすぐぐまぐま行けば卒業だが、まァ、何はともあれ、いろんな面でけじめをつけなければ。そう思い、手始めに、何故か私は、本の整理をする事にした。

文庫本、雑誌、教育関係などと、分類をしてゆくのだが、自分の買った本ばかりだというのにどうしてこんな量になるのか、不思議である。中身をペラペラめくってみると、熱心に注釈を書いた紙がはさかっていたりするのもあるが、一方では全く手つかずで表紙だけ身に覚えのある本も相当数である。とすると、やはりこれはつん読癖の成果だろうか。

本の背を上にして蛇のように並べた本を眺めていると、これらの本の中からいったい、どれだけの事が、私の心の糸に触れ得、はた又、糸に触れたものか、私の生活の中で、どれ程の光を放って

生きているか、疑問である。

一年前に中学校で、道徳の授業をやらせていただいたが、授業中は、第二反抗期の陰さえうかがえないおとなしい生徒である。しかし、彼等が一步、授業から遠のくと、自分の問題に対し授業で考えたような理想的な解決が出来るかどうかは疑問である。そこはそれ「わかっちゃいるけどー」精神がちゃっかり顔を出す事だろう。

そうかと思えば、講義の度に風と共に去りぬのスカレット・オハラのレストランの言葉をしみじみ語って下さる先生もいらっしゃる。

こんな事を考えてみると、本の中の体験が生活の中で生かされるには、豊富な経験と問題意識というものが前提条件になるのではないかと思う。

もうすぐぐまぐま行けば社会人1年生。自分の外部の経験も内部の経験も浅い私が、今までの学生

生活という一色塗りの生活に、どのような色を加えてゆくか、夢がふくらんだり、不安になったりの毎日である。

なんだか、読み返してみると、赤面してしまい

そうな程たいそうな事を連ねてしまったように思う。ちなみに学生生活で、得た事と言えば「よく遊び、(その遊びの中から)よく学べ」—短かく言うと、「よく遊び、よく遊べ」だったろうか。

見つかるまで探します

—レファレンス余話—

—Boys, be ambitious! のこと—

もうずい分前のことです。まだ参考調査の仕事に慣れない頃、学外から一通の電話がかかってきました。

「ボーイズ ビ アンビシャスの次に続く言葉を教えて下さい」

「エッ、あのクラーク博士のボーイズ ビ アンビシャスにですか」

こういうやりとりから始まったこの調査は、手あたりしだいにことわざ辞典、故事辞典の類、はては人名辞典をひくことになりました。ところがどれを見ても「少年よ大志を抱け」「Boys, be ambitious!」の他は何も続いていません。なかばあきらめかけましたが、もう一冊残った「英米故事伝説辞典 井上義昌編 富山房 昭和49年刊」により、Boys be ambitious の項をひきました。

— Boys, be ambitious! 青年よ大志をいだけ—

これは札幌農学校創設の際来朝し、初代の校長として同校の基礎を築いたアメリカ人 Clark 博士が、任期を終えて帰国に際し、見送りの学生にたいして馬上から叫んだ別離の言葉で、不朽の名言として広く用いられる……。

ここにも続きはない。続きなど最初からなかったのではなからうか。しかしあきらめるのはまだ早い。最後の行に「青語青年第108巻11号参照」とあるではないか。これぞとばかり書庫の中にとんで行き、英語青年108巻11月号626頁(昭和37年)を聞きました。あったのです。

Boys, be ambitious in the glory of God!

—見つかるまで探します—

文献複写の申込書にはよく雑誌名を省略してあります。最初のうちはずい分とまどいますが、巻号と出版年とをにらみ合せてやっと見つけた時はホッとします。

また時には誌名の欄に団体名しかないのもあり、これらは、Bulletin, Journal, Proceedings,

Report, Transaction とかを頭やら最後につけて探すが見つかる場合があります。

でもこんな事もあります。

その文献複写申込書には、誌名、巻号、頁、刊年、著者、論文名が、きちんとタイプされています。申込者の参照した引用文献には確かにそう出ていると思いますが、わが虎の巻「學術雑誌総合目録欧文編, Ulrich's International Periodicals Directory」等にはそんなタイトルの雑誌は見つかりません。

こうなると大変です。いくつも並んでいる単語をあれこれと順序を入れ替えて、まるでパズルでも解くかのようです。その時も①②③④⑤⑥⑦と並んでいた単語を何度か入れ替えているうち、⑦③④⑤①②⑥と並べかえると、學術雑誌総合目録に同誌名のもが見つかりました。どうやら巻号と刊年はあうようです。

ところが、學術雑誌総合目録で見ると限りでは、国内にはたった一箇所、東北地方のとある研究所(大学関係ではない)にあるだけです。しかも当時その地方は大地震の直後で、ずい分被害のあった所です。そんな事も心配しながら、とりあえず申込書を送ってみました。すると二、三日後はるばる東北の港町から長距離電話がかかってきました。

—申込書に書いてある雑誌は、うちにはありませんが、何で調べましたか

—學術雑誌総合目録ですが……

掲載されている頁を言うのと確認したらしく、—確かにあることにはなっていますが、もともと資料はきちんと整理されていなかった上、この間の地震で……

山積された中から一冊の雑誌を探すことの大変さを思い、あきらめようと思っていると、—こちらにその雑誌がない時はどうするのですか

—国内では他に見つかりませんので、国外に依頼

してみます

—それは大変ですネ。見つかるまで探します

そして翌日、またまたはるか彼方から、今度は明るいい声で電話がかかってきました。

—ありました！でも私方では複写業務をやっているんで、外注をして複写してお送りします

それから一週間後きれいにとじた複写物が届いたのはいうまでもありません。

以来「見つかるまで探します」という言葉が温く強く印象に残っています。

参考調査係 (有馬)

新着参考図書リスト

前号の「参考図書の充実をめざして」で述べたとおり除々に参考図書の充実が図られています。昨年11月以後に新しく購入整理された開架室備付の参考図書は820冊を越えて、一応の目標であった5,000冊にほぼ近づいています。

以下は最近出版されて図書館に購入、備付けられた参考図書の一部です。

歴史資料保存機関総覧 地方史研究協議会編

学研新世紀百科辞典 改訂新版

Books in print 1979-1980, Vol. 1-4. Bowker.

Great Soviet encyclopedia. Vol. 1-21.

Macmillan.

世界引用句事典 梶山健編

日本宗教事典 村上重良著

神社辞典 白井永二他編

キリスト教大事典 改訂新版 同編集委員会編

図説歴史散歩事典 井上光貞監修

入門近世文書字典 林英夫他編

日本近現代史文献解題 佐治芳雄編

近代人物号筆名辞典 近代人物研究会編

日本人人名大辞典 現代 平凡社編

地名語源辞典 続 山中裏太著

全国市町村名変遷総覧 日本加除出版編

行政相談ハンドブック 昭和54年 全国行政

相談委員連合協議会編

法学辞典 全訂版 末川博編

本邦アダム・スミス文献一目録および解題—

増訂版 アダム・スミスの会編

経営経済欧文略語ハンドブック 日本経営協会編

労務行政要覧 昭和55年度版

社会福祉事業辞典 新版 塚本哲他監修

現代教育活動事典 石堂豊他監修

図説学級経営事典 小1～小6 青木孝頼他著

研究者・研究課題総覧 人文・社会科学編

1979年版

研究者・研究課題総覧 自然科学編 1979年版

冠婚葬祭事典 実業之日本社編

民謡新辞典 島山兼人編

外来語の語源 吉沢典男他著

隠語辞典 榎垣実編

感情表現辞典 中村明著

現代中日辞典 増訂版 香坂順一他著

常用中国語会話ハンドブック 宮越茂夫著

ビルマ語辞典 原田正春他編

英語べからず小事典 松本安弘他著

英語反対語辞典 中村一男編

英会話ハンドブック 三橋光他著

標音仏和辞典 改訂新版 山本直文編

和西辞典 宮城昇他編

テーブル式スペイン語便覧 会田由他著

常用ロシア語会話ハンドブック 木村浩監修

The Oxford English-Turkish dictionary, by Fahir Iz and H. C. Hony.

The Oxford dictionary of quotations. 3rd ed.

Dictionnaire du français contemporain

Larousse, by J. Dubois.

Cassell's Latin-English, English-Latin dictionary, by D.P. Simpson.

世界幻想作家事典 荒俣宏編著

和歌の解釈と鑑賞事典 井上宗雄編

俳句の解釈と鑑賞事典 尾形仍編

カラー天文百科 平凡社編

星の事典 鈴木駿太郎著

地下水ハンドブック 同編集委員会編

昆虫事典 古川晴男他著

野鳥の事典 清棲幸保著

図解解剖学事典 H. Feneis 著

流量計測ハンドブック 川田裕郎他編著

発明発見小事典 E. デ・ボノ編

水資源便覧 昭和54年版

建築用語図解辞典 橋場信雄著

図解電子用語辞典 同編集委員会編

金属を知る事典 「金属」編集部編
 新塗料辞典 松本十九著
 暮らしの事典 伊藤善市他編
 水産百科事典 同編集委員会編
 マーケティング用語辞典 増補版 同文館編
 ヨーロッパの美術館案内 富永惣一編著
 世界演劇論事典 安堂信也他編
 ペンギン六か国会話辞典 R.C. コリス編
 宛字外来語辞典 同編集委員会編
 現代俳句歳時記 水原秋櫻子編
 現代詩の解釈と鑑賞事典 小海永二編
 漢詩の解釈と鑑賞事典 前野直彬他編
 イギリス文学案内 野町二他著

お知らせ

○ 第28回中国四国地区大学図書館協議会総会の開催について

昭和55年5月8日(木)・9日(金)の両日、愛媛大学附属図書館が当番館として下記の要領により開催することになりました。

記

- 1 会場 松山郵便貯金会館
 2 日程 第1日 5月8日(木)
 開会 9:00
 全体会議 9:30～
 職務別会議 10:40～
 部会 13:30～
 懇親会 18:00～
 第2日 5月9日(金)
 全体会議 9:00～
 閉会 12:00

- ※ 参加大学 国立、公立、私立
 ※ 協議事項 各大学から提出された協議事項について検討し、全国協議会に要望する事項をとりまとめること等。

○ 図書館利用証の変更について

昭和55年度から学生の図書館の利用については、従来の図書利用証に代り学生証で行いますので、必ず学生証を携帯して下さい。

○ 愛媛大学記念文庫について

昭和54年9月から昭和55年2月までの間に寄贈いただいた図書は下記のとおりです。

愛媛大学方言ゼミナール(吉田裕久)
 愛媛県上浮穴郡面河村大字仙野における
 文表現法の研究 1979

小野 捷
 英語史概要 成美堂 1980

小西永倫
 D.H. ロレンス 右文書院 1975

ジュシー チェインバーズ著 小西永倫訳
 若き日の D.H. ロレンス 弥生書房 1979
 故品川孝雄先生の遺稿を刊行する会(石川康二)
 よもぎ 1972

J. ホッグ著 高橋和久訳
 悪の誘惑 国書刊行会 1980

和田茂樹
 俳人の書画美術 第7巻 子規
 集英社 1979

○ 学生希望図書について

昭和54年11月から昭和55年2月末までに購入
 排架した学生希望図書は下記のとおりです。

- 吉田松陰
 関根悦郎著 創樹社 1979
- 知的生活
 P.H. ハマトン著 講談社 1979
- 違法と責任(現代刑法講座2)
 内田文昭他著 成文堂 1979
- 過失から罪数まで(現代刑法講座3)
 西原春夫他著 成文堂 1979
- クローニン全集 全25巻
 A.J. クローニン著 三笠書房 1979
- 現代文章宝鑑
 小田切秀雄他著 柏書房 1979

愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

第9号 昭和55年3月25日発行
 発行 愛媛大学附属図書館
 松山市文京町3番
 Tel 0899-24-7111